

年を重ねても安心して医療を受けられる横浜に

☎ 医療局医療政策課 ☎ 671-2993 ☎ 664-3851



年を重ねても医療を安心して受けることができるまちで暮らしたいな。



そういえば、横浜の医療が、いったいどうなっているか気にしたことがないわ…

横浜市の医療は今…

市立・市大・地域中核病院が整備されています

市では、市立病院や市立大学の附属病院のほか、方面別に高度な医療機能を有する6つの地域中核病院を誘致し、高度医療や救急医療を提供する機能の整備を図ってきました。(地図■)

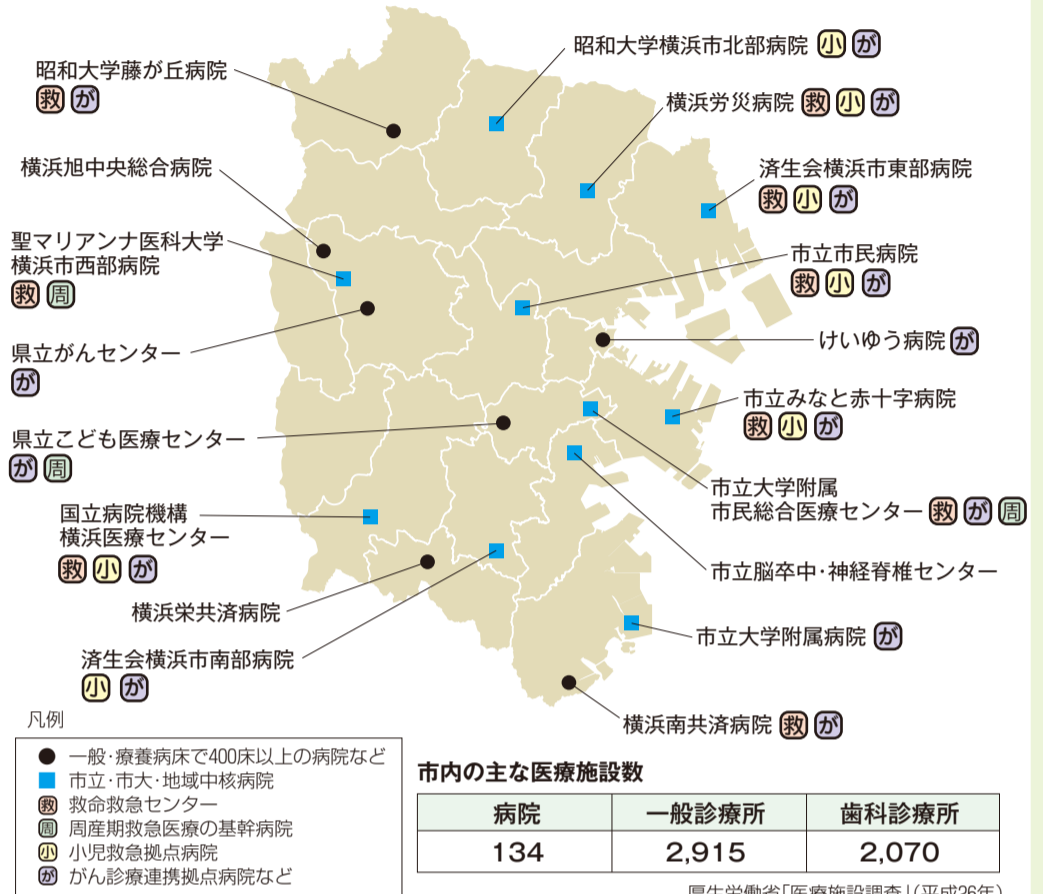
救急医療は重症度別、疾患別に体制が整っています

日曜や祝日、年末年始は、各区の休日急患診療所、夜間については、3か所の夜間急病センターで診療を行っています。入院治療が必要な患者に対応する二次救急拠点病院(23病院)のほか、生命に危険のある重篤患者に高度な医療を提供する三次救急医療体制は、9病院が救命救急センター(地図●)として指定されています。さらに、脳血管疾患、心疾患、外傷に特化した救急医療体制を構築しています。

出産時と小児救急医療も安心です

周産期の救急には、三次救急の基幹病院(3病院・地図○)、二次救急の中核・協力病院(11病院)が中心になって対応します。また、小児救急の診療を受けられる小児救急拠点病院(7病院)を指定し、救急医療に対応できる体制になっています。(地図④)

市立・市大・地域中核病院及び一般病床と療養病床で400床以上の病院など



横浜市がん撲滅対策推進条例に基づき、対策を進めています

がん診療連携拠点病院など(14病院・地図⊕)は、国や県が定めた基準を満たした、専門的ながん医療を提供している病院です。相談窓口として「がん相談支援センター」を設置し、がんに関する情報提供や相談に対応しています。小児がんについては、県立こども医療センターに相談窓口を設置しています。

2025年問題とは…

2025年には高齢者の人口が増加します

市の総人口は減少に転じますが、75歳以上の人口は、2010年の1.89倍に増加します。(※1)

病気などで入院する人が増えます

がんの患者は1.30倍に、急性心筋梗塞や脳卒中など循環器系疾患の患者は1.57倍に、肺炎などの患者は1.60倍に増加すると推計されており、入院患者数は2013年の1.34倍に増加する見込みです。(※2)

このままでは病院のベッドが足りなくなります

高度な医療を提供するベッドは充足しているものの、2025年以降には、手術後のリハビリや在宅復帰に向けた医療のためのベッドが大幅に不足すると見込まれています。

そこで市では、その対策に向けた取組を検討しています。

※1 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計」(平成25年3月推計)
 ※2 厚生労働省 必要病床数等推計ツール(平成27年)



2025年には、団塊の世代が75歳以上になるんだね。日本は3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上になるよ。

高齢になると病気にかかりやすくなるし、介護が必要な人も増える。それで、医療・介護ニーズが急増するのが、2025年問題ね。



75歳以上人口



1.89倍

入院患者数



1.34倍

2025年問題に対応するために、できることは何か。次ページで

地域医療構想

医療の2025年問題に備えて

将来の目指すべき姿を示します

神奈川県は、横浜市を含む県内の地域ごとに2025年にはどれくらいの病床が必要かという推計をして、目指すべき医療の提供体制を構想としてまとめました。これを「地域医療構想」といいます。

横浜市地域医療構想

検索



横浜市の2025年に向けた取組は始まっています

市では、病院・診療所関係者の代表、市立大学の代表、公的医療保険の代表などと一緒に、横浜の医療がどうすればもっと良くなるかを話し合い、2025年問題の解決に向けた計画を作ろうとしています。

市民の皆さんも、日頃から健康づくりや疾病予防に積極的に取り組み、自らの健康管理に努めましょう。

医療機関の役割分担

それぞれの特徴と機能を十分に生かすために

医療機関には役割があります

診療所は、入院するほどではない病気やけがの治療、長い間薬を飲んだり、検査したりする必要がある病気の治療、予防接種、健康管理を行います。

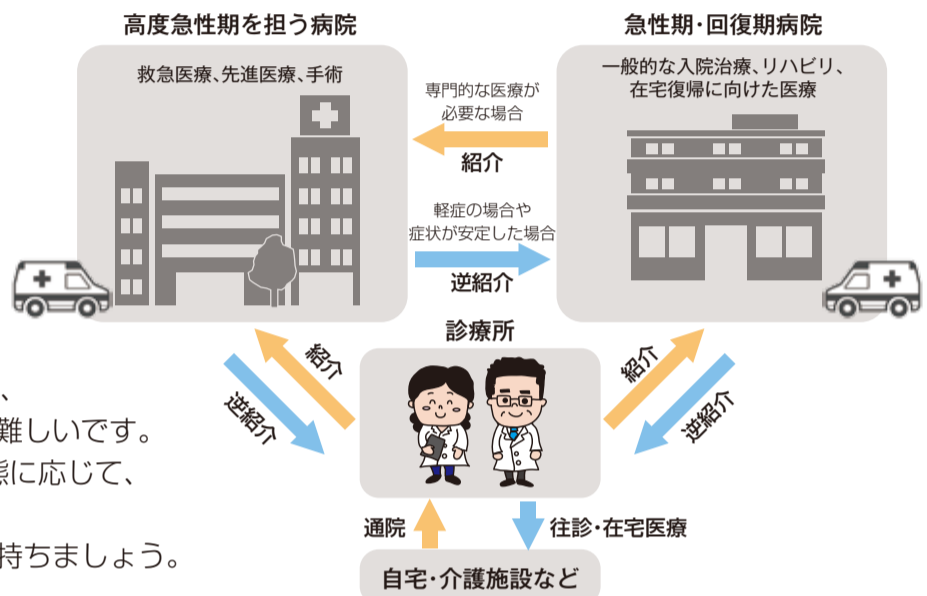
病院には、一般的な入院治療、手術を行う病院と高度な技術や機械が必要な病気やけがの治療、検査を行う病院があります。

必要な人に必要な医療が届くように

市内では、これから医療の需要が増加していきますが、病院や診療所、そこで働く人の数をすぐに増やすことは難しいです。

自分が病気になったり、けがをしたときには、その状態に応じて、どこで診てもらえばよいのかをよく考えてください。

そして、日頃から何でも相談できる「かかりつけ医」を持ちましょう。



■ かかりつけ医を持ちましょう

かかりつけ医とは

本人や家族の、日常的な診療や健康管理をしてくれる、身近な医師のことです。

こんなときに安心です

体調不良やちょっとした症状が気になるとき、健診などで異常を指摘されたときに、かかりつけ医を持っていると安心です。継続して診療を行うため、病気の早期発見や治療につながります。必要に応じて、専門医や専門の病院などに紹介してくれます。

かかりつけ医を探すには

近くの医療機関の情報を提供しています。

☎ 横浜市医師会地域医療連携センター

☎ 201-8712 ☎ 201-8768

月～金曜 9時～17時(12時～13時除く)

[祝日、12月28日(水)～1月4日(水)を除く]

■ 在宅医療 医療は外来や入院だけではありません

在宅医療とは

病気になっても住み慣れたところで過ごしたいと思いませんか？

訪問診療医や訪問看護師などが、通院が難しい人の自宅や施設を訪問して診療を行うのが在宅医療です。まずは、主治医や院内の医療相談室などに相談してみましょう。

在宅医療に関する相談窓口があります

市では、横浜市医師会と協働して「在宅医療連携拠点」として、市内全区に相談窓口を設けました。ケアマネジャー資格を持つ看護師などが、「訪問診療医や訪問看護師を探している」「歯科医、薬剤師等の助言がほしい」など、在宅医療に関する相談を受け付けています。

訪問診療



医師が、療養している場所へ診療に向かいます

訪問看護



看護師が、療養生活をする人を訪問し、必要な看護や医療処置を行います

歯科訪問診療・口腔ケア



歯科医や歯科衛生士が、歯の治療や入れ歯の調整、口腔ケアを行います

在宅訪問薬剤管理



薬剤師が、服薬の支援や薬剤の管理を行います

在宅医療連携拠点(在宅医療相談室)一覧

受付時間 月～金曜 9時～17時

[祝日、12月29日(木)～1月3日(火)を除く]

区	電話番号	住所
青葉	910-3120	荏田北3-8-6
旭	520-3200	二俣川1-88-24
泉	382-9810	中田北1-9-8
磯子	367-9976	滝頭2-31-6
神奈川	322-2885	反町1-8-4
金沢	782-5031	金沢町48
港南	350-7008	港南中央通7-29
港北	438-3420	菊名4-4-22
栄	893-6200	公田町635
瀬谷	520-3122	橋戸1-36-1
都筑	910-6582	牛久保西1-23-4
鶴見	503-1289	鶴見中央3-4-22
戸塚	861-8680	戸塚町4141-1
中	307-2505	本牧町2-353
西	620-5830	中央1-15-18
保土ヶ谷	465-6366	天王町1-21
緑	937-2303	中山町1156
南	315-7134	宿町4-76-1

急な病気やけがの受診相談は 横浜市救急相談センター ☎ #7119 または ☎ 222-7119

24時間
年中無休